

社会科（地理的分野）学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇〇〇

1 単元名

日本の諸地域 近畿地方—歴史の中で形づくられてきた人々の暮らし

2 単元の目標

- ① 近畿地方の地域的特色を、産業や文化の歴史的背景や開発の歴史に着目し、他地域の結びつきなどに関連付けて考察する。
- ② 地域の地理的事象の形成や特色には、歴史的な背景があることを捉える。

3 単元の指導にあたって

(1) 単元観

近畿地方は、平城京・平安京といった古代の都や、大阪・堺・神戸など産業、交通の要地として中世以降発展した都市が多く存在する。また、交通網の発達により近畿地方の都市は結びつきを強め、近年、大阪大都市圏を形成している。京都や奈良の町は、碁盤目状の歴史的景観や、多くの文化財が点在し、観光地としてマスコミ等で取り上げられているため、生徒にとってイメージしやすい都市である。また、歴史の授業で実際にとりあげている文化財も多く、親しみやすい。しかしながら、現在目にすることができる京都らしさ、奈良らしさは都市化の波に逆らいながら保存、継承された結果である。一方、空襲や震災の被害を受けた神戸や大阪では、歴史的町並みは破壊され、戦後は都市の拡大、近代化が進められていった。都市の拡大には関西私鉄が大きく関わってきたことを理解させ、大阪大都市圏の形成について交通網の発展が重要な要素であることについて考えさせたい。近畿地方における古都の保存継承の歴史と都市の発展は、相反する点も多いが、近畿地方に住む人々の努力や歴史的背景を学び、観光都市の将来像を想像することで、私たちが住む町についても考えさせるのに有効である。

(2) 生徒観

この学級の生徒は社会的な見方や考え方が十分に見についていない生徒が多い。考えることが苦手だと思いついていない生徒も多く、自分の考えに自信をもてず、与えられた学習課題に対して初めから投げやりになったり、委縮したりする生徒もみられる。その反面、さまざまな社会事象に対して「なぜ?」「どうして?」と素直に反応し、その社会事象のしくみを知りたいと思っている生徒は多い。特に近畿地方は、有名な都市が多くイメージしやすいので、生徒の学ぶ意欲や関心は高いと思われる。

(3) 指導観

生徒にとって大阪や京都、奈良といった都市の様子はイメージしやすいので生徒のもっている社会的認識を引き出しながら、主体的に学ぶ意欲をもたせたい。第3時（本時）では、学習課題に対して、小グループで意見を交流させることにより、根拠をもとに筋道をたてて説明できるようにさせる。そのため、思考したことの過程が残るワークシートを活用する。さらに第4時以降、自分の社会的認識を仮説を修正・発展させるための課題を取り入れることで、自分なりの考えを深め、社会的な見方や考え方を広げるような授業づくりを行いたい。

4 指導と評価の計画

	学習内容	学習活動	評価規準	意	思	技	知
1	近畿地方の自然と産業	近畿地方のあらましを教科書、地図帳から読み取りプリントにまとめる	○自然と産業を関連づけて理解できる ・志摩半島の真珠養殖 ・紀伊山地の林業 ・大都市郊外の近郊農業 ・若狭湾の原子力発電所	○			◎
2	都市の歴史と産業	○10min ボックスの映像視聴 ○古都（京都・奈良）の成り立ちと現在の姿をまとめる。 ○大阪の成り立ちと現在の姿をまとめる。	○都市の成り立ちの歴史的背景を理解できる。 ・京都、奈良は古代の都としての歴史を背景に、現在は観光産業に力を入れていることを理解する。 ・大阪は中世より経済の中心地として発展し、現在では西日本の経済、政治の中心となっていることを理解する。	○			◎
3	古都の成り立ちと現在<本時>	○京都ではなぜ、伝統文化や文化財が保護されてきたのか資料を分析して考える。 ○古都の将来像を明確にし、都市化と伝統文化の保存について自分の意見をまとめる。 地図や資料を活用し、京都で文化財や伝統文化が保存継承されていることを説明する。 京都の将来像について考えを交流し思考を深める。	○京都の歴史的景観や文化財を保護について資料をもとに、説明することができる。 ・観光資源 ・地域住民の力（町衆） ・歴史的要因（空襲を受けない） など ○京都の課題や将来像を考え、平安建都 1300 年目の（80 年後）京都について、新たな仮説をたて、現代社会の事象をもとに理由付けすることができる。		◎	○	
4	大阪大都市圏	○大阪大都市圏における近	○近畿地方の大都市と大阪		○	◎	

		畿地方の私鉄の役割を資料を活用し考える。 地図を活用し近畿地方の私鉄の特徴を論述する。	を結ぶ私鉄を資料から読み取ることができる。 ○近畿地方の私鉄が大阪と近郊の都市を結びつけ大阪大都市圏を形成したことを多面的に考察し理解する。				
5	近畿地方の学習を振り返って	○近畿地方のあらましの確認（小テスト） ○白地図にまとめる	○近畿地方のあらましの基本的知識がある。 ○学習したことを白地図にまとめることができた。	◎			○

5 本時の目標

京都の歴史的景観や文化財を保護について資料をもとに説明し、京都の課題や将来像について自分の考えを述べる。

6 本時の指導

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
①写真を見て、「京都らしい」と感じるものを三つ見つけワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・古都京都として他地域と異なる景観や特色に気付かせる。 ・なぜ「京都らしい」と感じたかを自分の言葉で表現させる。 ・小グループで学習する 	
②「京都らしい」と感じたことを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・コの字型にする。 ・古都の景観や伝統文化、文化財が保存されていることが「京都らしさ」につながっていることに気付かせる。（生徒の意見交流から） 	
③京都の伝統文化保存、歴史的景観の保存についての取り組みを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・古都保存法～新景観条例について説明する。 	
なぜ、京都では景観を保護し、京都らしい町なみを保存しようとするのか？		
④資料の資料を関連付け、なぜ景観保護をしているのか考える。 (小グループで)	<ul style="list-style-type: none"> ・誰が保護しているのか、なぜ保護しているのかを考えさせたい。思考が難しい生徒に助言や支援をする。 	京都の歴史的景観や文化財を保護について資料をもとに、説明することができる。（ワークシート） ＜思考・判断・表現＞
⑤思考したことを全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な意見が交流できるよう、発言する生徒に考慮する。 	

	<p><予想される発言></p> <ul style="list-style-type: none"> *外国人の観光客に日本の文化や町並みを体験してもらうため *京都の住民が地域の文化や伝統に誇りをもち守るため *府や市が観光資源として保護 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p>建都 1300 年の京都の姿を考えよう。</p> </div>		
<p>⑥2094 年の建都 1300 年に京都の景観はどのように変わっているか、自分の考えをまとめる。</p> <p>⑦思考したことを交流する。</p>	<p>・ 80 年後に京都の景観は保護されているのか、都市化が進んでいるのか自分なりの考えを書くよう指示する。その際、思考の根拠を明記するよう指示する。</p>	<p>80 年後の京都について、現代社会の事象をもとに理由付けすることができる。(ワークシート)</p> <p style="text-align: center;"><思考・判断・表現></p>